

淡海湖

(たんかいこ)



全景



中学生によるエコスクール
(外来魚駆除)

ため池の概要

ため池の所在地

滋賀県高島市

ため池の特徴

淡海湖は、人里から4km離れた標高450mの山中にある湖面12ha、貯水量132万トンの大規模なため池で、大正時代に大変な苦勞の末に造られました。

池の周辺は、滋賀県の「守りたい育てたい湖国の自然100選」にも選ばれ、ミズナラ、ホオノキ、カエデ類などの落葉広葉樹が豊かです。

春はマンサク、タムシバ、ホンシャクナゲなどの花が山を彩ります。夏はヤマボウシ、ノリウツギ、リョウブなどの樹木が個性的な花をつけ、またホトトギス、ツツドリ、オオルリなど多くの野鳥がさえずります。秋はこれらの葉が色とりどりに彩られます。

希少な生物や生息環境を守るため、地元中学生が外来魚の駆除や清掃活動に取り組んでいます。

この池は、淡海耕地整理組合が大正年間を費やして築いたもので、別水系の渓谷に造った堰堤から1.2kmの隧道を掘って導水しています。

事業を主導した松本家(造り酒屋)は、親子2代にわたって組合長に就任しましたが、4箇所崩落が起こった隧道工事は困難を極め、完成を見るまでに2人とも心勞により他界しています。

池の築造と平行して100haの耕地整理が行われ、痩せた桑畑が水田に変貌し、淡海湖が潤す農地は、現在では滋賀県の代表的な早場米地帯となっています。

関連情報